

大正元年九月刊行

水交社記事

第拾卷 第一號

No. 167

次 目

明治十二年井上清輝艦長(今ノ元帥子爵)ノ
歐洲巡航後提出セラレタル意見書

元帥副官海軍少佐 永野 永三

近世航海術

海軍少佐 江副 九郎

初彈ノ研究

海軍少佐 波多野 貞夫

南清地方巡航中ノ所感

海軍大尉 加藤長太郎

飛行機ト安定

海軍少尉 難波 暉雄

別冊附録

神州の法制に現はれたる信條の力

大正元年十二月刊行

水交社記事

第拾卷 第貳號

No. 168

目次

夏季漢口警備

須磨艦長海軍大佐 奥田貞吉

机上射撃演習改良案

戦闘射撃要表公算誤差ニ就テ

距離時計兼變距率測定器ニ就テ

海軍中佐 金田秀太郎

大戦艦航海上ノ殷鑑

海軍中佐 犬塚助次郎

戦闘巡洋艦ノ戦術上ニ於ケル價值

海軍大尉 下村忠助

短艇指揮心得

海軍大尉 篠原國彦

別冊附録

換算諸表

海軍大尉 野中逸太郎

大正二年三月刊行

水交社記事

第拾壹卷 第壹號

No. 169

目次

火藥ニ關スル摘要

海軍少佐 波多野貞夫

腸室扶私バラチフス豫防上軍艦便所改造ノ必要

海軍軍醫少監 佐藤徳松

第拾卷「南清地方巡航中ノ所感」訂正

海軍大尉 加藤長太郎

工業廳ニ於ケル機械ニ於テ

海軍大主計 東 榮吉

魚雷發射術上照準ニ關スル所見

海軍大尉 梅鉢義三

第九卷 潮汐學發展ノ概要及下之關海峽ノ潮象正誤

別冊附錄

精神ノ修養

本多日生

大正二年六月刊行

水交社記事

第拾壹卷 第二號

No. 170

目次

「ディーゼル」發動機	海軍造兵中監 多田重豫
軍港内ニ於ケル塵灰ノ處理及廢物利用ニ就テ	海軍主計少監 朝比奈正一
磁氣羅針儀	海軍少佐 替地初太郎
戰役管見	海軍少佐 柳原繼雄
B火藥及現代無煙火藥	海軍少佐 波多野貞夫
空間ノ主權	海軍少佐 岸井孝一
水天潛差ノ變化スルコトニ就テ	海軍技師 中野徳郎
別冊附録	
精神ノ修養 第二卷	本多日生
李舜臣傳附年表	海軍少將 矢島純吉寄送
長江史蹟	第三艦隊司令部編纂寄送
炭費航續距離速算表	海軍中佐 筑土次郎寄送
速力時間航程關係表	

大正二年九月刊行

水交社記事

第拾壹卷 第參號

No. 171

目次

金屬線電球	社員某	寄書
無煙火藥ノ安定度試験ニ紫外光線ノ應用	海軍軍醫中監 隈川基	
夏季軍帽ニ就テ	海軍軍醫中監 隈川基	
直射光線ト帽トノ關係	海軍中軍醫 長田勝芳	
艦船便所改良案	同 兼松高一	
重ナル戦争ニ就テ戦費ノ調査	海軍軍醫少監 高宮隆	
航空船ノ研究	海軍大主計 二村光三	
別冊附錄	海軍機關中尉 頓宮基雄	
百分比表 附速力時間航程關係表	海軍少佐 野中逸太郎	

大正二年十二月刊行

水交社記事

第拾壹卷 第四號

No. 172

次 目

「最近二十年間ニ於ケル軍艦兵装ノ沿革」結論

海軍中佐 井口第二郎

最新航海術

海軍少佐 加藤勁次郎

富力ノ戦争ニ及ホス影響

海軍主計少監 細井正治

高速回轉ノ電動機ハ故障起リ易キ傾向アルヲ論ス

海軍機關大尉 齋藤寅二

大正二年八月二十六、七日ノ颶風ニ就テノ所見

海軍少尉 寺岡謹平

航行保險率

譯稿

海軍用航空船ニ關スル根本問題

譯稿

別冊附錄

ノヴィツク物語

海軍大尉 眞木重愛

大正三年三月刊行

水交社記事

第拾貳卷 第壹號

No 173

目次

海軍用飛行機

海軍大佐 山路 一善

改正法令ノ主旨ニ就テ

海軍大佐 中里 重次

トラファルカー海戦ニ於テネルノノ實施セル戦術ノ實跡ヲ考究調査スヘク海軍本部ノ任命セル委員ノ報告書

海軍少佐 井上 清純

臆内彈道結論ノ一般

海軍少佐 波多野 貞夫

地球磁氣觀測法

寄 書

一九一三年ニ於ケル露國海軍ノ概況

別冊附録

「ノアール」と外交政策（部外秘）

海軍大佐 田中耕太郎

皇太后宮陛下ノ御高德ニ就テ法學博士 筧 克彦

大正三年六月刊行

水交社記事

第拾貳卷 第貳號

No. 174

目次

明治初年ノ帝國海軍

海軍編修 淺井將秀

無線電話並多音式電弧式無線電信ノ理論

海軍少佐 淺見敬一

英國軍艦旗海軍將旗等ノ沿革

海軍大佐 中里重次

東南亞叢島、セレベス、フヒリツビン

海軍中將 柄内曾次郎

「改正法令ノ主旨ニ就テ」ノ補遺

海軍大佐 中里重次

造艦問題ニ關スル二三ノ意見

ネビー、リーグ、アニユアル拔萃

愛耳蘭自治問題

參謀本部海外事情ヨリ轉載

海外彙報

軍令部常報拔萃

別冊附錄

支那ノ革命(部外秘)

宗方小太郎

大正三年九月刊行

水交社記事

第拾貳卷 第三號

No. 176

次 目

帝國海軍ノ製艦小史

海軍編修 淺井 將 秀

戰艦ノ主砲トシテ如何ナル砲ヲ裝備スヘキヤ

海軍中佐 井口 第二郎

伊豆大島火山體ノ磁針偏差ニ及ホス影響ニ就テ

海軍技師 中野 徳 郎

敵艦方位ノミニ依リ敵針敵速測定法ニ關スル研究

海軍少佐 野 田 爲 良

濠洲みやけ

海軍中將 枡内曾次郎

艦艇ノ速力ニ及ホス負荷ノ影響

一九一四年海軍年鑑

海外彙報

軍令部常報拔萃

大正三年十二月刊行

水交社記事

第拾貳卷 第四號

No. 177

目次

帝國海軍ノ製艦小史

海軍編修 淺井 將秀

獨逸海軍ノ歴史

海軍大尉 服部 豊彦

水上飛行機ノ現状

海軍大尉 河野 三吉

航空用推進器

海軍機關中尉 頓宮 基雄

無線電話送信法ニ就テ

海軍技師 林 房吉

遠距離通信ニ就テ

海軍技師 林 房吉

破壊薬ヲ穿孔シテ有效トナス近時ノ研究

(獨、ニューマン氏論)

海軍少佐 波多野 貞夫

サーバーシー、スコット潜水艇萬能説

及之ニ對スル論評

英國通信

海軍職官沿革

海軍少佐 大原 利武

大正四年三月刊

水交社記事

第拾叁卷 第一號

No. 178

次

列強ノ製鐵事業

海軍造兵中監
野田鶴雄

「カロリン」群島調査事項

海軍大尉
武藤浩

目

歐洲大戰亂開始前後ニ於ケル佛國ノ狀況

海軍中佐
丸山壽美太郎

ヘンリー・ステッド氏著歐洲戰爭概觀

海軍大佐
加藤寛治

大正四年六月刊行

水交社記事

第拾叁卷 第貳號

No. 179

目次

一、英國海軍航空術ノ現狀

海軍少佐 河野三吉

一、佛國シヤルボニエー氏ノ研究發表セル
飛行機ヨリ投下スル爆彈ノ彈道

海軍造兵大技士 中谷達次郎

一、重力ニ就テ

海軍中尉 川瀬博資

一、熱機關ニ於ケル燃料トシテノ「ナフタリーナ」

海軍技師 林房吉

一、海戦ニ於ケル傷者救護法ニ關スル露國ノ經驗

海軍中軍醫 兼松高一

一、交流式通信器ノ構造及ヒ作働ノ原理

海軍機關大尉 鹽谷信武

一、墨國風俗ノ片影

海軍大尉 山縣武夫

大正四年九月刊行

水交社記事

第拾叁卷 第叁號

No. 180

次 目

一、兵糧攻ニ對スル獨逸ノ善後策

海軍少佐 今村信次郎

一、獨軍ノ使用セル有毒瓦斯ニ就テ

海軍中藥劑士 大條正雄

一、墨其哥見聞錄

海軍大尉 三好七郎

別冊附錄

嚴冬ニ於ケル旅順要港

大正四年十二月刊行

水交社記事

第拾叁卷 第四號

No. 181

目次

一、獨逸ノ對日本評論(其ノ一)

海軍軍令部戰史編纂委員

一、滿洲產ノ高粱、包米及豆ヲ以テ帝國本土同胞ノ食料タル米產ノ不足ヲ補フ研究調査附「グリセリン」製出ニ關スル調査報告

海軍軍醫中監 鈴木源三郎

海軍主計中監 豊島精太郎

海軍大軍醫 牛島敬太

海軍大主計 坂田一樹

一、1913年 Schlüsselberg 露國火藥製造所ニ於ケル實驗

海軍中佐 波多野貞夫

一、「デーゼル」發動機

海軍機關大尉 田中謙治

一、獨逸ノ戰時施設ノ一端

森孝三

一、巴爾幹諸邦國情一覽表

海軍軍令部調

大正五年三月刊行

水交社記事

第十四卷 第一號

No. 182

目次

- | | |
|------------------------------|--|
| 一、同 | 被害商船一覽表
(自大正三年八月一日
至大正四年七月三十一日) |
| 一、同 | 一覽表 |
| 一、交戰各國亡失艦艇 | (大正五年
二月十五日調)
三三一—三五〇頁 |
| 一、獨逸人ノ對日本評論(其ノ二) | 海軍軍令部戰史編纂委員
一九七—三二九頁 |
| 一、操舵效果ノ數理の新研究 | 海軍教授 野滿隆治
一九七—二九五頁 |
| 一、日韓史要 | 海軍少將 山口九十郎校閱
海軍主計大監 石本久萬男編
一七七—一九六頁 |
| 一、歐洲戰亂前既往二十五年間ニ於ケル獨逸ノ化學工業ノ進歩 | 海軍藥劑少監 社家間房吉
九三—一七五頁 |
| 一、副長奉職中 | (自明治四十二年四月
至大正四年一月)實施シタル主ナル事項ノ概要
海軍中佐 福地嘉太郎
一—九二頁 |

大正五年六月刊行

水交社記事

第拾四卷 第貳號

No. 183

目次

一、潜水艇ノ現在及將來	一——二八頁
二、艦艇ノ衝突坐礁等ニ關スル實例	二九——三六
海軍大尉 廣瀬彦太	
三、獨逸人ノ對日本評論(其ノ三)	三七——五四
海軍軍令部戰史編纂委員	
四、新西蘭軍隊將卒ヨリ軍艦伊吹ニ寄贈ノ記念品(マヲリ 人戰舟模型)ニ關スル文書	五五——六六
五、海軍士官ノ處世訓	六七——七〇
六、獨逸實業十戒	七一

大正五年九月刊行

水交社記事

第十四卷 第三號

No. 184

目次

一、ヂャットランド沖英獨海戰公報	一——一四頁
二、日本近海ノ潮汐	英國海軍本部 四三——七一
三、艦内衛生私見	海軍大軍醫 坪内順良 七三——一〇四
四、獨逸人ノ對日本評論(其ノ四)	海軍軍令部戰史編纂委員 一〇五——一二〇
五、虎列刺流行ニ就テ	海軍軍醫少監 今井金三郎 一二一——一三六

大正五年十二月刊行

水交社記事

第十四卷 第四號

No. 185

目次

◎東伏見宮殿下獎學章程 附、大正五年水交社員軍事研究科題及 右ニ就キ各員ノ述作提出期限	一—二
◎立太子禮ノ節捧呈ノ賀表	一—二
◎明治二十七八年戰役海軍記念日祝賀會狀況	一—二
一、露國海軍戰局ノ一年 一九一六年一月十四日「ノーヴォエ、ウレーミヤ」	一—二
二、獨逸人ノ對日本評論(其ノ五) 海軍軍令部戰史編纂委員	一三—四〇
三、英國燃料經濟調查委員會報告	四一—六二

水交社記事

大正六年二月刊行
第拾五卷 第壹號

目 次

No. 186

○海軍根據地ノ要義ヲ論シテ米國海 軍根據地ノ施設ニ及フ	一頁
○米國戰艦ノ設計ニ就テ	三五
○新式潜水艇速力及航續距離ノ進歩	四一
○スベール中將の手東 (海軍軍令部 戦史編纂委員)	四七

水交社記事

大正六年三月刊行
第拾五卷 第貳號

目 次

No. 187

○海水ニ混セル「コレラ」菌ト鹹水魚トノ關係 (海軍軍醫少監 壁島爲造)	一頁
○アリユーション島(米領アラスカ)ノ戰略的價值——米國ト太平洋問題.....	一七
○交戦各國亡失艦艇一覽 (大正六年二月十五日調)	二七
○彙報.....	五九
ダーダネルス——推進器ノ廻轉間隙ヨリ發射スヘキ飛行機用機關銃——米國主力艦隊ノ軍事的任務——米國海軍ノ特務船ニ對スル準備——北海ニ於ケル英國及獨逸國ノ宣言——北海及地中海ニ於ケル英國及獨逸國等ノ宣言表示圖	

水交社記事

大正六年四月刊行
第拾五卷 第參號

次 目

No. 188

- 陝西方面旅行日記……………海軍少佐 梅田 三良
- 假想日米海軍戰略概觀……………四三
- 彙 報……………四九

ガム、布哇、ダッチハーバーノ戰略的價值——米國海軍ノ海岸無線電信局買収案——米國ノ飛行船建造計畫——米國海軍ノ理想的潜水艇(八百噸内外)——米國屬領駐屯軍増兵豫定——粉狀燃料(石炭ヲ「セメント」ノ如キ微粉ニ製シタルモノ)——戰時英國海軍官制ニ對スル批評

水交社記事

大正六年五月刊行
第拾五卷 第四號

次 目

No. 189

○青島ノ嚴寒(第十一艇隊)	一
○度量衡ノ簡易換算法(海軍大尉瀧美龜太郎)	一九
○航空用計器、空中水雷及夜光羅針盤	二三
○偵察及警戒	二九
○獨艦「モエーザ」	三七

水交社記事

大正六年六月刊行
第拾五卷 第五號

目 次

No. 190

- 潜水艇 一
- 瑞典ニ於ケル製鐵業ノ概要（海軍中佐井出光輝） 二
- 蘇格蘭頁岩油業視察記事（海軍機關少佐宮本雄助） 三
- 熱帶氣象ノ健康ニ及ホス影響（海軍軍醫少監上野次郎） 四
- 米國大統領ノ同國議會ニ與ヘタル對獨開戰ニ
關スル教書 五一
- 獨艦「モエーヴェ」(續) 六五
- 獨逸潜水艇ノ數ト種類 九九
- 支那共和國重要職員一覽表 卷尾

水交社記事

大正六年七月刊行
第拾五卷 第六號

次 目

No. 191

- 東伏見宮殿下獎學賞牌寫真・・・・・・・・・・・・・・・・・・卷首
 - 大正六年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等・・・・・・一
 - 艦底汚穢ニ關スル研究（海軍機關中佐吉岡保貞）・・・・・・・・五
 - 電氣消煙法ノ原理（海軍機關大尉古市龍雄）・・・・・・・・四一
 - 英國軍需品工業ノ概況（海軍造兵大監武藤稻太郎）・・・・・・七一
 - 蘇格蘭貝岩油業視察記事（海軍機關少佐宮本雄助）・・・・・・八九
 - 彙 報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・一〇一
- 米國海軍機關特進將校採用ノ狀況——米國海兵航空中隊新設ノ計畫——米國「ユニオン」鐵工場造艦ノ盛況——米國軍用飛行橋ノ數——米國ノ魚雷落射飛行機——米國航空機整備ニ關スル國民航空研究會ノ議題——米國海軍燃料油地下貯藏「タンク」

水交社記事

大正六年八月刊行
第拾五卷 第七號

目 次

No. 192

- 大正六年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 . . . 一
- 英國軍需品工業ノ概況(續) 海軍造兵大監武藤稻太郎 . . . 五
- 彙 報 四九
- 米國海軍兵學校生徒卒業式ニ於ケル海軍船ノ訓示——米國海兵隊入籍者ノ家
ニ「名譽札」ヲ貼附ス——米國航空機防禦用探照燈——米國航空機射擊練習
用寫真銃——獨逸同盟國側ニ於ケル俘虜——世界ニ於ケル商船ノ損失

水交社記事

大正六年九月刊行
第拾五卷 第八號

次 目

No. 193

- 大正六年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 . . . 一
 - 拉丁亞米利加視察概況（海軍中佐森電三） 五
 - 水中信號器（海軍機關大尉古市龍雄） 九
 - 米國ニ於ケル獨逸 二一
 - 彙 報 四五
- 米國々旗ノ由緒——海戰ニ於ケル飛行機ノ用途——獨潜水艇ノ破網裝置及聯
合軍側船腹不足ノ新原因——遺佛米陸軍ノ動靜

水交社記事

大正六年十月刊行
第拾五卷 第九號

目 次

No. 194

- | | |
|--------------------------|----|
| ○ 大正六年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 | 一 |
| ○ 水交社ノ起原及沿革 | 五 |
| ○ 快風船涉海記事 | 一一 |
| ○ 現戰役ノ獨逸潜水艇 | 二五 |
| ○ 伊國潜水商船設計 | 四三 |

水交社記事

大正六年十一月刊行
第拾五卷 第拾號

目 次

No. 195

- | | |
|------------------------------------|-----|
| ○ 大正六年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 | 一 |
| ○ 一九〇三年以降米國海軍造艦一覽 | 四ノ次 |
| ○ 一九一七年度米國陸海軍軍事費等追加豫算 | 五 |
| ○ 軍用飛行機 | 四五 |

水交社記事

大正六年十二月刊行
第拾五卷 第拾壹號

次 目

No. 196

○ 夜間ノ水雷戰 (海軍少佐出光萬兵衛譯)	一
○ 道 教 (木幡泰三)	四三
○ 彙 報	九五
英海軍航空隊附偵察將校—大爆彈投下用飛行機—潜水艇狩用無翼海上飛行機—米國航空生徒訓練事業—潜水艇問題—潜水艇潜航用トシテノ瓦斯機械	

水交社記事

大正七年一月刊行
第拾六卷 第壹號

目 次

No. 197

- | | |
|--------------------------|----|
| ○ 外國語音譯法私見（海軍大佐松岡靜雄） | 一 |
| ○ 獨逸戰時經濟（其一）（海軍主計總監宇都宮鼎） | 七 |
| ○ 英國海軍航空隊ノ衛生 | 七七 |

水交社記事

大正七年二月刊行
第拾六卷 第貳號

目次

No. 198

○ 獨逸戰時經濟(其二)(海軍主計總監宇都宮鼎) 一

○ 彙報 七三

一九一七年末ニ於ケル米國ノ徵發シ得ヘキ船舶——米國船舶院旗ノ新設——
墨國燃料輸出狀況——新重油運搬船——戰費及人員——超「ツエツベリン」ノ
祕密

水交社記事

大正七年三月刊行
第拾六卷 第參號

次 目

No. 199.

- | | |
|-------------------------------|----|
| ○ 獨逸戰時經濟(其三)(海軍主計總監宇都宮鼎)…………… | 一 |
| ○ 米國參戰六箇月間ノ國力動員…………… | 五一 |

水交社記事

大正七年四月刊行
第拾六卷 第四號

次 目 No. 200.

○ 潜水艇政策ニ對スル現戰爭ノ教訓	一
○ 潜水艇ノ船體	一七
○ 日米戰爭ノ起ル理ナシ	二九
○ 年頭ニ際シ日本ニ敬意ヲ表ス	四六
○ 米國陸軍軍備ノ缺陷	五五
○ 將ニ來ラントスル歐洲戰局ト之ニ對スル米國ノ覺悟	八三
○ 彙報	一一五

アリントン、キヤウイテ間ノ無線系完成ス—佛國高等航空會議ノ設置—
 獨逸帝國經濟局新設ニ關スル勅令—獨逸海運ノ五十年紀念日—エーゼル
 島(リガ灣口)占領ニ關スル獨逸公報—波爾的海戰ノ經過—リガ灣海戰ニ
 關スル獨逸側諸報—英國擬潛艇ノ破壊—獨逸本國ニ對スル昨年九月中ノ
 空中攻撃—英國ニ關スルチルビツ將軍ノ所見

水交社記事

大正七年五月刊行
第拾六卷 第五號

次 目

No. 201.

再ヒ電氣推進ニ就テ（海軍機關少佐古市龍雄）	一
大西洋横斷飛行問題	二三
聯合與國飛行家ノ戰績	二八
開戰以降敵航空機巴里襲來回数ト被害者數	四二
瑞西ノ蒙レル現戰役ノ影響	四四
獨逸ノ英病院船撃沈ニ對スル辯解一例及其駁論	四八
現戰爭後ノ商戰ニ對スル米國ノ覺悟	五〇
軍國ノ大統領トシテノウイールソン氏	五三
現戰役各交戰國ノ戰爭狀態開始又ハ國交斷絶	六四
年月日調査	六五
彙報	六八
米國大型「サブマリン、チエーサー」建造——米國重油運搬船建造—— 十吋二萬「ワット」アーケ式探照燈ノ標準能力——獨逸造船界ノ近況—— 獨逸封鎖區域ノ擴張ニ就テ——戰略戰術戰務及創意	六八

水交社記事

大正七年六月刊行
第拾六卷 第六號

次 目

No. 202.

- | | |
|---------------------|-----------|
| ○ 記念日祝賀會概況 | |
| ○ 獎學授賞 | |
| ○ 米國ノ教育（海軍機關中佐後藤兼三） | 一 |
| ○ 彙報 | 一三三 |
- 獨逸ノ長距離砲——巴里砲擊ノ獨逸巨砲

水交社記事

大正七年七月刊行
第拾六卷 第七號

次 目

No. 203.

- 大正七年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 巴里ノ砲撃 (海軍造兵總監工學博士有坂鋁藏譯) 一
- 射程百二十吉米ノ大砲 (海軍造兵總監工學博士有坂鋁藏譯) 一一
- 長距離砲 (海軍造兵總監工學博士有坂鋁藏譯) 二〇
- 人ノ選拔ト實驗心理學 (文學博士松本亦太郎) 二四
- 支那ノ貨幣制度ニ就テ (海軍大主計南鐵太郎) 六七
- 戰後ノ獨逸貨幣制度 (海軍大主計吉用茂雄譯) 八九

水交社記事

大正七年八月刊行
第拾六卷 第八號

次 目

No. 204.

- 大正七年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 砂鐵ニ就テ (海軍造兵大監野田鶴雄) 一
- 戦後ノ獨逸貨幣制度(續) (海軍大主計吉用茂雄譯) 六
- 余ガ間諜トシテノ冒險 二八
- 英國陸軍ト國民 (海軍中佐溝部洋六譯) 一二三
- 劇的制海權 (海軍大佐金田秀太郎寄) 一四九

水交社記事

大正七年九月刊行
第拾六卷 第九號

次 目

No. 205.

- 大正七年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 石炭ヨリ採取シ得ル産物及副産物一覽表 (海軍造兵大監 野田鶴雄寄) ……一
- 諸金屬類溶解點及冶金用各爐熱度一覽表 (海軍造兵大監 野田鶴雄寄) ……一
- 崛起セル米國海軍(海軍中尉濱口鶴雄譯) ……三
- 無線電信ハ如何ニ航海者ヲ幫助スルカ ……八一
- 開戦後三箇年半ニ於ケル航空機ノ進歩 ……八九

水交社記事

大正七年十月刊行
第拾六卷 第拾號

目 次

No. 206.

- | | |
|---------------------------|----|
| ○ 大正七年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 | 一 |
| ○ 崛起セル米國海軍(續) (海軍中尉濱口鶴雄譯) | 一 |
| ○ 米國「タンク」汽船建造ノ發達 | 四三 |

水交社記事

大正七年十一月刊行
第拾六卷 第拾壹號

次 目

No. 207.

- 大正七年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 英艦「コーンウォール」ニテ聞キシ儘(海軍大佐樺山可也譯)・・・一
- 支那ノ鐵山ト我國ノ鐵自給(海軍大主計南鐵太郎)・・・二六
- 神經衰弱ニ就テ(海軍大軍醫濱田三郎)・・・三九

水交社記事

大正七年十二月刊行
第拾六卷 第拾貳號

目 次

No. 208.

- | | |
|---------------------------|----|
| ○英國の三大動員(海軍機關中佐吉岡保良)..... | 一 |
| ○米國ニ於ケル勞働組合ノ跋扈..... | 六九 |
| ○續長江史蹟(遣支艦隊司令部)..... | 七七 |

水交社記事

大正八年一月刊行
第拾七卷 第壹號

目 次

No. 209.

- 航海術ニ關スル新ラシキ智識(海軍少佐重松良一) 一
- 峽湘詩話(海軍大主計隅野四郎) 七
- 軍艦矢矧ノ最近消息(海軍機關中佐坂井爲吉) 四三
- 戰史研究資料 一

水交社記事

大正八年二月刊行
第拾七卷 第貳號

目 次

No. 210.

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ○運用術講話(海軍大佐大谷幸四郎)..... | 一 |
| ○世界最大ノ米國ホツグ島造船所(海軍機關中佐後藤兼三譯)..... | 四五 |
| ○戦史研究資料..... | 三三 |

水交社記事

大正八年三月刊行
第拾七卷 第參號

目 次

No. 211.

- | | |
|--|----|
| ○船員事情(商船學校長海軍中將石橋甫) | 一 |
| ○電球檢波器及同増音器ノ發達ニ就テ(海軍少佐小泉久雄譯) | 二九 |
| ○米國私立工場ニ於ケル勞働問題解決法ノ例 | 六九 |
| ○戰史研究資料 | 七一 |

水交社記事

大正八年四月刊行
第拾七卷 第四號

次 目

No. 212.

- | | |
|--------------------------|-----|
| ○少年職工ニ就テ（海軍造機少監松田竹太郎譯） | 一 |
| ○自哈府至尼市旅行記事（海軍機關大尉安孫子良文） | 三七 |
| ○戰史研究資料 | 一二三 |

水交社記事

大正八年五月刊行
第拾七卷 第五號

次 目

No. 213.

○戦史研究資料

.....

一八七

○外征雜感

.....

一

水交社記事

大正八年六月刊行
第拾七卷 第六號

目 次

No. 214.

- 運用術參考資料(運用練習艦富士寄稿)・・・・・・・・・・・・・一
- 一、米國海軍標準曳艦裝置並曳艦法
- 二、電働水壓操舵裝置
- 簡易天氣豫知法(海軍少佐津田威彦)・・・・・・・・・・・・・九
- 動物ノ兵隊サン(海軍機關大尉山口五十治)・・・・・・・・・・・・・三一
- 戰史研究資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・二四九

水交社記事

大正八年七月刊行
第拾七卷 第七號

次 目

No. 215.

- 大正八年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 大正七年自十一月至十二月本社收支計算報告 一
- 大正八年自一月至六月本社紀要 七
- ボールゼン式電弧送信機(海軍少佐小泉久雄) 一一
- 戰艦「ニュー、メキシコ」ノ艤裝(海軍機關少佐横尾道春譯) 二三
- 疲勞ト生産ニ就テ 二九
- 近代ノ戰爭ニ於ケル戰死及病死率 七三

水交社記事

大正八年八月刊行
第拾七卷 第八號

次 目

No. 216.

- 大正八年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 一
- 大正八年七月中水交社紀要 一
- 水交社被服調辦事業ニ就テ（水交社社監眞田鶴松） 九
- 賃錢ト労働時間ニ就テ 一九
- 米獨戰雜統計（海軍中佐長谷川清） 五七

水交社記事

大正八年九月刊行
第拾七卷 第九號

次 目

No. 217.

- | | |
|-------------------------|----|
| ○大正八年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等 | 一 |
| ○大正八年八月中水交社紀要 | 一 |
| ○日本刀ニ就テ(水交社社監眞田鶴松) | 一三 |
| ○我南洋ノ事情(海軍大尉平尾重吉) | 二一 |

水交社記事

大正八年十月刊行
第拾七卷 第拾號

目 次

No. 218.

- 大正八年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 大正八年九月中水交社紀要 一
- 水交社社員ノ住所ニ就テ(水交社社監眞田鶴松) 五
- 運用術參考資料(運用術練習艦富士寄稿) 一一
- 三、錨ノ發達竝現代ニ於ケル其ノ構造ノ原理

水交社記事

大正八年十一月刊行
第拾七卷 第拾壹號

目 次

No. 219.

- 大正八年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等
- 大正八年十月中水交社紀要 一
- 「ハイ、シー、フリート」ノ降服ヲ見タル迄
(海軍機關少佐山中政之) 九
- 英艦内生活ノ片影(海軍造船大尉田路坦) 五五

水交社記事

大正八年十二月刊行
第拾七卷 第拾貳號

次 目

No. 220.

- 大正八年十一月中及十二月初水交社紀要 一
- 一五六五年モルタノ攻圍及同地築城ノ由來
(海軍少佐坂野常善) 二九
- 艦内ノ言葉ニ就テ(海軍大尉小西千比古) 五一
- 今回戰役中英國海軍ニ於ケル推進機關ノ發達
(海軍機關大尉徳田順一) 六九
- 水交社記事刊行ノ起原ヲ尋ネテ先輩經營ノ迹ヲ偲フ
(海軍編修淺井將秀) 一〇五

水交社記事

大正九年三月刊行
第拾八卷 第壹號

次 目

No. 221.

○ 水交社總裁及諸役員等	一
○ 書籍分配	二
○ 東伏見宮殿下獎學章程中改正	四
○ 大正九年水交社員軍事研究課題及述作提出期限等	四
○ 水交社内則中改正	七
○ 大正八年十二月乃至大正九年二月水交社紀要	八
○ 潮候ノ觀念(海軍大尉河毛肇)	一一
○ 漢口雜俎(海軍中尉曾爾章)	一六
○ 戰艦計畫ニ於ケル速力兵裝及防禦ノ相互影響(海軍造船 少佐田路坦)	一九
○ 航空機ト海軍	五一
○ 航空機ノ將來トデカンネン諸島ノ價值	五六

水交社記事

大正九年六月刊行
第拾八卷 第貳號

次 目

No. 222.

○水交社總裁及諸役員等	一
○本社役員更迭	二
○書籍分配	二
○大正九年 自三月一日至五月三十一日 水交社紀要	三
○下士卒普通學教育ニ關スル所見(海軍少佐鈴木卓郎)	四
○戰時佛國海軍ノ行動概要(海軍大佐小山田繁藏譯)	一二
○大戰秘史チルビッツ回想錄抄(海軍大佐高橋節雄譯)	一七
○大正九年 自三月至五月 社員ノ主ナル異動	
○社員住所等異動	
○外國語ニ關スル書籍ノ撰擇(英文)	

水交社記事

大正九年九月刊行
第拾八卷第三號

次 目

No. 223.

- 水交社總裁及諸役員等……………一
- 本社役員更迭……………二
- 書籍分配……………二
- 大正九年六月乃至九月水交社紀要……………三
- 大正七年軍艦矢矧ニ於ケル流行性感冒患者發生當時ノ實況(當時矢矧艦長)海軍大佐山口傳一……………四
- 大正九年自六月一日至九月二十日社員重要ナル異動……………
- 社員住所異動……………

水交社記事

大正十年六月刊行
第拾九卷 第壹號

次 目

No. 224.

○彙報	一
水交社役員―書籍分配―東伏見宮殿下獎學章程ニ依ル大正十年軍事研究課題 ―水交社規則中改正―安子女王殿下御婚嫁御祝品獻上―義濟會及報效會へ内 勢金御下賜―大正九年軍事研究述作優秀者旌賞	
○講話參考資料	一三
八八艦隊―無線電信ノ現状―潜水艦ノ將來	
○國際水路會議ニ就テ(海軍中佐重松良一)	三三
○米國工業動員ニ就テ(海軍機關少將重村義一)	三九
○官業民業經營能力比較論(海軍主計少佐河西金重郎)	七三
○軍艦春日ノ米國行(海軍編修淺井將秀)	九三
○米英佛ノ教育ト印象ノ一斑(海軍教授川井田藤助)	一五九
○家庭通信(軍艦日進、利根ノ南洋巡航―海軍中佐千早甲子郎)	一八一
○海軍士官ニ「エスベラント」語ノ習修ヲ奨ム(海軍少佐大場 嘉藤)	一八三
○船乗標語(海軍中佐廣瀬彦太)	一九一

水交社記事

大正十年九月刊行
第拾九卷第貳號

次	目
No. 225.	
○彙報	 一
	水交社役員―書籍分配―東伏見宮殿下奨學章程ニ依ル大正十年軍事研究課題
○石油ニ對スル概念	(海軍機關大尉山本六助) 七
○交通運輸機關トシテノ航空船	(海軍造兵大尉中村龍輔) 一〇七
○瓶ノ行衛	(海軍大尉小西千比古) 一二五
○「オキシヘラー」ノ正體	(海軍機關大尉齋藤一治) 一三七
○天文航法ニ關スル研究	(海軍中佐太田文次) 一四三

水交社記事

大正十年十二月刊行
第拾九卷第參號

目 次

No. 226.

○彙 報

水交社役員―書籍分配

○世界大戰ノ財政觀（海軍主計少佐武井大助）

.....三

○戰史ニ現ハレタル氣象（海軍大尉小西千比古）

.....五五

○海軍ノ將來ニ大艦乎―乎（海軍大尉五十嵐惠譯述）

.....六九

○堪察加半島概況（海軍中佐木村豐樹）

.....二五一

○溺死體搜索具ニ就テ（報告中拔萃）

.....三一七

水交社記事

大正十一年三月刊行
第貳拾卷第壹號

次 目 No. 227.

- | | | |
|---------------------|---------------------|-----|
| ○英國「スピッドヘッド」到着 | 大正十年五月七日ノ時ニ於ケル御召艦香取 | 卷首 |
| 寫眞 | | 卷首 |
| ○御召艦香取艦上ニ於ケル東宮殿下御寫眞 | | 卷首 |
| ○彙報 | | 一 |
| 水交社役員―書籍分配 | | |
| ○東宮殿下御外遊記 | (海軍大佐山本信次郎) | 二 |
| ○東宮殿下御乗艦中ノ御逸話 | (軍艦香取) | 六九 |
| ○大正十年軍艦香取特別任務航海雜記 | (海軍少佐雪下勝美) | 一〇一 |
| ○海軍艦船使用時規則ニ就テ | (海軍中佐山口清七) | 一七七 |
| ○瓶ノ行衛其二―― | (海軍大尉小西干比古) | 一八七 |
| ○「ベルシヤ」灣カラ | (海軍中佐重松良一) | 二〇七 |

水交社記事

大正十一年六月刊行
第貳拾卷第貳號

目 次

No. 228.

○彙 報……………一

水交社役員―書籍分配―東伏見宮殿下獎學章程ニ依ル大正十一年
軍事研究課題―大正十年軍事研究述作優秀者旌賞

○過般ノ世界大戰ニ際シ米國ニ於ケル研究機關ノ編成 及ヒ其ノ活動ノ概況（海軍造機少將齋藤真）……………七

○軍隊心理ノ研究（海軍中佐廣瀬豐譯述）……………四五

○各種増音受信機ノ得失ニ就テ常識的判斷（海軍大尉藤井 清輔）……………一九

○大正十年ノ回顧（海軍大尉田結穰譯）……………一三三

○函館ノ役（海軍編修淺井將秀）……………一七七

水交社記事

大正十一年九月刊行
第貳拾卷第參號

目次

No. 229.

- 山階宮武彦王殿下へ献上セル花盛器ノ寫眞……………卷首
- 彙報……………一
- 水交社役員―書籍分配―水交社總裁依仁親王殿下薨去―故依仁親王殿下御
履歴―東伏見宮殿下獎學章程廢止―博恭王殿下ヲ水交社總裁ニ奉戴ハ
- 坤德餘影(攝津艦長小山田繁藏)……………一二
- 贅澤ト戰爭(海軍中佐有島成甫譯)……………三五
- 游泳不能者指導法ノ一例(海軍少佐鈴木卓郎)……………四三
- 無電ノ負終末性ニ就テ(海軍大尉福田貞三郎)……………四六
- 下士官兵ニ施セシ指導法ニ就キ最モ效果アリシト思
考スル一例(海軍少佐今泉周逸、海軍大尉小住徳三郎)……………五七
- 軍艦春日同航當時ノ狀況(海軍中將鈴木貫太郎)……………六八

水交社記事

大正十一年十二月刊行
第貳拾卷 第四號

次 目

No. 230.

○彙 報

水交社役員―書籍分配―明治二十七八年

海軍記念日第二十八回祝賀會

○特務艦大泊ト碎氷（海軍中佐吉武純藏）

○見聞雜錄―被服―船内雜事―南洋占

領地雜感（海軍大尉岩上維精）

○列強ニ於ケル軍事航空界ノ

現況 其一（海軍中尉武彦王）

一

一

三七

九五

水交社記事

大正十二年三月刊行
第貳拾壹卷 第壹號

次 目

No. 231.

○彙 報	一
水交社役員―書籍分配	
○衝突妄語(海軍大佐河合退藏)	一
○世界大戰ニ於ケル潜水艦乗員ノ惡戰苦闘	七
(海軍大佐漢那憲和)	
○英國海軍ノ古キ習慣ト言葉(海軍少佐小澤覺輔譯)	二一
○精神講話ニ就テ(海軍大尉五十嵐惠)	四三
○武將トシテノ智勇ノ必要程度ヲ較論ス(海軍大尉五十嵐惠)	六五
○戰爭ノ經驗ニ基キ今後十年間ニ於ケル陸海及空中ヨリノ攻撃ニ對シ英海岸要塞防禦ノ將來ヲ推論ス(海軍中尉岡田有作譯)	七三
○地中海出征中ノ航海術ニ關スル所感(海軍大尉森德治)	九五
○一九一四年ノ動員當日ニ於ケル「ウイルヘルム」皇帝ト獨逸政策參謀長「フォン、モルトケ」回想錄ヨリ拔萃(英國新聞「ノイエ、フライエ、レツセ」所載)	一一三

水交社記事

大正十二年六月刊行
第貳拾壹卷 第貳號

次 目

No. 232.

○ 彙 報 一

水交社役員―書籍分配―明治三十七八年海軍記念日第十八回祝賀會

○ 列強ニ於ケル軍事航空界ノ現況其二（海軍中尉武彦王） 一

○ 寒中水泳實驗（軍艦安藝） 二七

○ 「ヘリウム」ノ話（海軍機關大尉福田秀穂） 三七

○ 海軍懲罰令抄解（海軍法務官潮見茂樹） 五五

水交社記事

大正十二年十二月刊行
第貳拾壹卷 第參號

次 目

No. 233.

○彙 報……………一

水交社役員

○艦船操縦ノ秘訣其一（海軍大佐有澤四十九郎）……………一

○狹水路通過ノ潜水艦發見ニ關スル提案（海軍少尉馬渡重利）四七

○游泳體操（海軍大佐河合退藏）……………四九

○文部省主催水泳講習參加報告（海軍大尉廣瀬末人、海軍大尉

内田市太郎）……………五七

水交社記事

大正十三年三月刊行
第貳拾貳卷 第壹號

目次

No. 234.

○口 繪

皇太子殿下御婚儀奉祝ノ爲陸海軍高等官一同ヨリ獻上セル置時計ノ寫眞

○彙 報……………一

水交社役員——皇太子殿下御婚儀奉祝ノ爲獻品

○「シーブルージュ」ノ閉塞其一（海軍少佐壺江乙矢譯）……………一

○艦船操縦ノ秘訣其二（海軍大佐有澤四十九郎）……………七三

○赤色戦闘機其一（海軍大尉尾崎主税譯）……………九七

○長澤第一水雷戦隊司令官訓話覺書（第一水雷戦隊司令
部）……………一六七

○朝鮮人ノ風俗習慣（海軍中佐津田威彦）……………三三

水交社記事

大正十三年六月刊行
第貳拾貳卷 第貳號

目次

No. 235.

○ 吳水交社報	一
○ 水交社職員名簿	一
○ 水交社創立三週年紀念海軍紀念日第十九回祝賀會	一
○ 籍之印	一
○ 艦隊操縦ノ秘訣（海軍大佐有澤四十九郎）	七五
○ 赤色戦闘機其二（海軍少佐尾崎主税譯）	一一五
○ 第四十三潜水艦將士ノ遺墨ヲ示スニ當リ親愛ナル	
母校ノ健兒諸君ニ告グ（海軍少將高橋節雄）	一四九

水交社記事

大正十三年九月刊行
第貳拾貳卷 第參號

次 目

No. 236.

○彙 報……………	一
水交社役員——明治二十七八年戰役黃海海戰紀念日第二十九回祝賀會	
○我國液體燃料ノ將來（江坂德藏）……………	一
○加州沿岸ニ於ケル米驅逐艦隊遭難事件竝 其教訓（海軍中佐小野彌一）……………	三
○統御術（阿蘇艦長德田伊之助）……………	四九
○「ジープルージュ」ノ閉塞 其三（海軍少佐壺江乙矢譯）……………	六二
○赤色戰闘機 其三（海軍少佐尾崎主稅譯）……………	六七

水交社記事

大正十三年十二月刊行
第貳拾貳卷 第四號

次 目

No. 237.

○彙 報	一
水交社役員―水交社規則中改正	
○英帝國ト航空船(海軍大尉藤吉直四郎譯)	一
○「ジープルージュ」ノ閉塞其四(海軍少佐壺江乙矢譯)	三
○赤色戦闘機其三(海軍少佐尾崎主税譯)	七五
○旅順港(淺井將秀)	九五

水交社記事

大正十四年三月刊行
第貳拾參卷 第壹號

次 目

No. 238.

○彙 報

水交社役員

○海軍機雷（海軍大尉香春克己譯）

○「ジープルーヂュ」ノ閉塞其五（海軍少佐壺江乙矢譯）

一

一

一五

水交社記事

大正十四年六月刊行
第貳拾參卷 第貳號

目 次

No. 239.

○彙 報

水交社役員

○佛國戰死軍人絶筆集（海軍中佐洪 泰夫譯）…………… 一

○「チルビツ」ト獨逸ノ海戦法（海軍法務官安藤守義譯）…………… 三

○米國支那艦隊（海軍中尉石原英男譯）…………… 五

水交社記事

大正十四年九月刊行
第貳拾參卷 第參號

次 目

No. 240

○彙 報

水交社役員

明治三十七八年戰役海軍紀念日第二十回祝賀會

明治二十七八年戰役記念第三十回祝賀會

朝融王殿下御婚儀ニ付置時計獻上

○佛國戰死軍人絕筆集（承前）（海軍中佐洪 泰夫譯）…………… 一

○海軍共濟組合ノ本質ニ就テ（海軍主計中佐 二村光三）…………… 六五

○潜水艦攻防法略說（海軍大尉 吉田毅雄）…………… 九一

○我海軍ノ傳統的精神ヲ論ジ併セテ之ガ

具體的振興策ニ及ブ（海軍大尉 平井泰次）…………… 一一九

○獨逸ノ民情（海軍大尉 小島秀雄）…………… 一二五

○地質概觀（海軍大將 柄内曾次郎）……………

水交社記事

大正十四年十二月刊行
第貳拾參卷 第四號

目次

No. 241.

○彙報

水交社役員

○再ビ海軍懲罰令ニ就テ……………一
(海軍法務官潮見茂樹)

○佛國戰死軍人絶筆集……………三
(承前)(海軍中佐洪泰夫譯)

○「カテナリー」ノ研究……………九三
(海軍少佐永田良三)

○獨逸盛衰興亡略史續稿……………一三三
(海軍大尉小島秀雄)

水交社記事

大正十五年三月刊行
第貳拾四卷第壹號

目 次

No. 242

○彙 報	
○獨逸ノ復興ト其ノ原因(海軍大佐 小横和輔)	一頁
○五―五―三比率ニ就テ(海軍造兵少佐 荒木國幹譯)	二五
○初メテ「タラカン」航海ヲスル人ノ爲ノ手記 (海軍大尉 山澄貞次郎)	五五
○F式音響測深儀ノ話(海軍大尉 曾爾章)	八五
○華府會議ノ生ミタル英ノ二戰艦「ネルソン」ト 「ロドニー」(海軍大尉 鹿目善輔譯)	一〇三
○「歴史ハ繰返ス」ノ教訓ト今日ノ國際問題ノ考察 (海軍大尉 人見錚一郎譯)	一二五
○賀港來舶誌	一二五

水交社記事

大正十五年六月刊行
第貳拾四卷第貳號

次 目

No. 243.

○彙 報

水交社役員

○明治三十七八年戰役海軍記念日第二十一回祝賀會概況

○機雷ト機雷敷設 (海軍大佐廣瀬彦太譯) 一

○獨逸ノ敗因ヲ研究シ部下指導上ニ於ケル吾

人ノ覺悟ヲ述フ (海軍大尉佐々木健爾) 三

○澎湖島附近ノ氣象概要 (澎湖測候所長) 九

水交社記事

大正十五年九月刊行
第貳拾四卷第 参 號

次 目

No. 244

○彙 報

水交社役員

黃海海戰記念日第三十一回並水交社創立五十年祝賀會概況

○讀史偶筆（海軍大尉 吉田毅雄）……………一

○初級海軍士官ノ常識トシテ心得ヘキ

經濟地理學概論（海軍大尉 朝比奈秀雄）……………四三

○海戰ニ於ケル潜水艦ノ價值（海軍大尉 鹿目善輔）……………二七七

○海軍始ノ式ノ沿革……………三〇三

水交社記事

大正十五年十二月廿五日刊行
昭和元年
第貳拾四卷 第四號

目次

No. 245.

○彙報

水交社役員

○賞罰何レヲ難シトスルヤ (海軍大佐津田威彦) 一

○英國同盟罷業ノ經過 (海軍主計中佐石黒利吉) 五

○朱雁丸ノ航海ニ就テ (海軍大尉曾爾草) 四九

○明治維新當時ノ海軍 (海軍囑託淺井將秀) 六二